

# 横沢温泉の由来

## 静御前と義経伝説

1094年に藤原清衡が平泉に移り、以後三代百年にわたって栄えた。この間に金色堂をはじめ多くの寺社に使われた金がこの地方から産出され、金売吉次等、金にまつわる者が出入りし、平泉や京へ金を運ぶ商いをした。この間に平家を滅ぼした義経が平泉に逃れるが1189年藤原氏は滅び、義経も死んだとされる。

が、ここから北に逃げ延びたという義経北行伝説が始まる。箱石駅裏には義経主従を祭る判官神社があり、鈴久名バス停近くには義経と再会したとされる静御前を祀る鈴ヶ神社がある。(地名のスズクナはシズカが訛ったといわれている。)



## 横沢の温泉のおこり

一方横沢には、木挽き職人が怪我をした手を洗ったところ化膿しないで治る不思議な泉がある等、切り傷が治りやすく、肩腰の痛みによい泉があることは昔から伝えられてきた。大正時代には小屋が掛けられ、木の風呂が設けられて地元の人たちが利用してきたという。

## 静峰苑のスタート

昭和53年(1978)地元の要望により川井村の施設として「静峰苑」がオープンした。

静御前の静と早池峰の峰をとって静峰苑と名付けられ、地元横沢地区で組合を作って運営する公設民営の走りとなる形でスタートした。再会の泉にちなみ、子孫繁栄を願って地元議員(佐藤茂司氏、坂本万太郎氏、山崎清一氏、橋場勇氏)によって金精様が奉納されている。

その後大広間が増築され、平成21年には浴室拡大などを行っている。運営は組合から一時期民間で行ったが平成15年からはかわい元気社が運営を担当、平成18年にNPO法人となっている。



鈴ヶ神社



静御前供養塔(鈴ヶ神社)



判官神社

## 成分と効能

開業当時は温泉成分が薄かったが道路工事等により、下流の橋の袂から新たな源泉が加わりポンプアップで送られています。平成27年に行った成分分析結果概要は右のようになっています。



なお、入浴に適した温度に維持するため加温しています。また、源泉保護および不純物除去、殺菌等のため循環ろ過等の処理をしています。入浴剤は使用しておりません。ごゆっくり入浴下さい。

宮古市指定管理施設 横沢冷泉 静峰苑  
(指定管理者 特定非営利活動法人かわい元気社)

## 横沢温泉成分分析結果概要

- PH値(8.5)
- ラドン含有量 7.1キュリーラドン/kg
- 主要成分(1kgあたり)Mg  
炭酸水素イオン 212.7, ナトリウムイオン 74.7,  
カルシウムイオン 6.9, 炭酸イオン 5.1  
硝酸イオン 3.5, フッ素イオン 2.6,  
塩素イオン 1.8
- 遊離成分  
メタケイ酸 16.3, 遊離二酸化炭素1.8,  
メタホウ酸 0.83
- 分析年月日 平成27年7月15日
- 分析機関 一般社団法人 岩手県薬剤師協会

